



C2021-04 天に属する者

[今月の聖書]

第一コリント (15:3-8, 20-22, 42-44, 57)

15:3 わたしが最も大事なこととしてあなたがたに伝えたのは、わたし自身も受けたことであった。すなわちキリストが、聖書に書いてあるとおり、わたしたちの罪のために死んだこと、15:4 そして葬られたこと、聖書に書いてあるとおり、三日目によみがえったこと、15:5 ケパに現れ、次に、十二人に現れたことである。

15:6 そののち、五百人以上の兄弟たちに、同時に現れた。その中にはすでに眠った者たちもいるが、大多数はいまなお生存している。15:7 そののち、ヤコブに現れ、次に、すべての使徒たちに現れ、15:8 そして最後に、いわば、月足らずに生れたようなわたしにも、現れたのである。

15:20 しかし事実、キリストは眠っている者の初穂として、死人の中からよみがえったのである。15:21 それは、死がひとりの人によってきたのだから、死人の復活もまた、ひとりの人によってこなければならぬ。15:22 アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。

15:42 死人の復活も、また同様である。朽ちるものでまかれ、朽ちないものによみがえり、15:43 卑しいものでまかれ、栄光あるものによみがえり、弱いものでまかれ、強いものによみがえり、15:44 肉のからだでまかれ、霊のからだによみがえるのである。肉のからだがあるのだから、霊のからだもあるわけである。15:57 しかし感謝すべきことには、神はわたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちに勝利を賜ったのである。

ヨハネ (11:25)

11:25 イエスは彼女に言われた、「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。

ローマ (1:4)

1:4 聖なる霊によれば、死人からの復活により、御力をもって神の御子と定められた。これがわたしたちの主イエス・キリストである。

イースターおめでとうございます。お元気でお過ごしでしょうか。4月4日は復活祭です。イエス・キリストの十字架と復活という最も大きなテーマを考える大切な時です。欧米ではこの日最も晴れやかな服装をし、たくさんの花を飾り、盛大に食事会をいたします。そしてお互いにハッピーイースターと声を掛け合うのです。しかし今年はコロナ禍のために食事はもとより、盛大な礼拝も持つことができません。しかしこのことは真面目に聖書を読む者にとっては幸いなことです。2000年の間にキリスト教会が作り上げてきた復活祭のイメージを取り去って、復活の事実と意味について考えるにふさわしい環境が整ったということができます。

ペンテコステの日にペテロが語った最初の説教をケリュグマと言っています(使徒行伝 3:14-17)①十字架上で死なれたイエス・キリストは復活された。②それは偶然の出来事ではなく旧約聖書の預言の成就である。③この事実に触れたものの人生は根本的に生まれ変わる。このみことばの力のゆえに今日私たちが信仰を持ち、また教会が存在しているのです。

ナザレ人イエスが 33 年間地上を歩まれましたが、十字架で死なれ、三日目に復活された時キリストとなったのです。人間イエスと共に生活してきた弟子たちは、復活の主に出会った時、天に属するお方キリストに触れて、その生き方が全く変えられてしまったのです。あなたが復活の信仰を持つ時、地上に属するものから、天に属するものに変えられるのです。それはまたいかなる苦難をも死でさえも恐れぬものとされるのです。ですからイースターおめでとうございます。

(お知らせ)

*4月21日(水)11:00 水曜礼拝を自由が丘チャペルでいたします。この集會が再開できますようにお祈りください。しかしまだその他の地区における集會は見合わせております。

◆◆◆ C F I 会員投稿原稿 第 76 回 ◆◆◆

「神様からのプレゼント」

森真弓（神奈川県）



「一日一章ずつ朝起きてまず第一に目に触れる文字は聖書のみことばであること、まず第一に口を開いて出る言葉は祈りであること、それを続けていけば主が育てて下さいます。私が神様のみことばによって砕かれ、へりくだった悔いた心をもっていつも主と共にあるとき、神様の御手が働いて、神のなさる勝利の業がはっきり浮き彫りにされて現れてくるのであると教えられました」。これは相模女子大学の恩師清水トシ先生の詩歌集「ともしび」の中の一文です。清水先生は今治アシュラムで榎本保郎先生にお会いになり、この文章の通り「みことば聴従と祈り」の生涯を全うされました。

私が聖書を手にしたのは大学入試に失敗を繰り返し、試験を受けず推薦で許可された大学の清水先生が指導される聖書研究部に入った時です。1966年2月17日、誕生日の朝、リクエストしてあった讃美歌514番がラジオから流れ、イザヤ書43:1「恐れるな、私はあなたをあがなつた。私はあなたの名を呼んだ。あなたは私のものだ」というみことばを聞きました。その時以来イエス様の支配の中に置かれていることに驚きました。卒業後故郷の徳島に帰り、鴨島兄弟教会で12月25日に受洗しました。

1971年、主人と見合いをしましたが、決断ができない時、イエス様のゲッセマネの祈りを思い起こしました、「しかし私の思いではなく御心が成るようにしてください」（ルカ22:42）。当時の私は、食べる和下痢をするの繰り返しで、肉体的にも弱っていました。未婚者との結婚だからお断りしようと思っていた時、「神が清めたものを清くないなどと言ってはならない」（使徒10:15）とのみことばで決心しました。

その後、母校での勤務、子育て、教会、恩師が始められた社会福祉法人南町田ちいろば会みぎわホームの仕事など、目の回るような生活に追われておりました。40数年働いて定年まであと少しという2006年12月24日、脳出血で倒れ救急搬送されました。今まで何でも一人でできていたのに誰かいないと何もできない。家族や周りの多くの人たちの支援で、1月12日七沢リハビリテーション病院脳血管センターに転院しました。その時神様は「向きを変えて、出発しなさい。」（申命記1:7、14）と言われました。訓練室に横たわり、天井を見上げ、理学療法士の先生の手の中に頭を置いている状態で、「いいんですかこのまま何もしないで」と聞くと、「いいんです、今は冬ですよ。焦ってもダメです。春になれば芽は出でしよう」とのことば。

2015年大腿骨骨折手術、リハビリ、そして現在は皆様のお世話になりながら一人で自宅生活をしています。身体障害者二級、要介護2、転倒を繰り返し、だんだん筋力も衰えすべてが困難になってきました。思い通り自由に体が動かさず、硬直しますので、外出は娘と出かける以外不可能と諦めていましたが、2020年2月29日コロナ禍のメサイアコンサートに車椅子で参加できました。小さくなっていた心が、光の中に照らされて解放され、安らぎと感謝で満たされました。

今日もまず聖書が開かれ、祈りの時を持ち、テレフォンサービスを聞き、CDのメッセージを聞き、時々友の来訪を受け、賛美に満たされた日々を過ごすことができるこの幸せを神様からのプレゼントと感謝しています。

「私たちが滅びうせなかつたのは、主の恵みによる。」（エレミヤ哀歌3:22）